



上手に魚に近づくために

パラオのメジャーポイントで見ることのできる魚たちは、ダイバーに対する警戒心が比較的低い。毎日のようにダイバーを見ているからね。そんな魚たちでもダイバーの早い動きや、追い回すような行動には警戒します。逃げてしまいます。間近で観察したい、カメラ／ビデオ撮影の際にどうやって魚に近づけばよいのか？

簡単です。動きを止める！ とにかくゆっくり、魚にストレスを与えないように注意を払う。こうすることで、今までなかなか近づけなかった魚たちを間近で観察することができる確率が上がります。ゆっくり動いているつもりでも、魚たちにとっては早い動きに感じられ、ストレスを与えてしまうことが多いのです。

メジャーポイント以外で見る魚たちの多くはダイバーを警戒します。ダイバーが動かずに流れに乗っているだけでも、その距離を縮めることはなかなかできません。そこで群れを追ったらどうなるか？より逃げるだけです・・・。魚を追うのは止めましょう。魚たちにストレスを与えない、これが大切なことです。

以前のパラオ、カメを間近で観察できることなんてほぼありませんでした。なぜなら、みんな追い回していたから。今は？というと、しっかり近づくことができます。捕食をしているときなどは、ダイバーが近づいても彼らは全くお構いなし。追い掛け回すことをやめたおかげで、カメたちもダイバーは自分達にとって危害を加えるものではない。そんなことを学習したのでしょう。もちろん追いかければ逃げます。

マンタも同じです。以前ジャーマンチャンネルでは水底に着底した状態でマンタを観察していました。クリーニングステーションに来るマンタ、捕食をするマンタ、共に同じスタイルです。いつの頃からか捕食するマンタをより近くで観察するため、中層に泳ぎでマンタを観察するスタイルが始まりました。その結果、マンタが捕食行動をする場所が沖へ沖へと移動してしまったのです。

マンタウォッチングに関する願いは、以前と同じような環境にジャーマンチャンネルに戻したい。そんな思いからです。時間はかかるかもしれませんが、カメと同じように私達がストレスを与えることをやめることで、マンタが元いた場所に戻ってくることを願っています。

多くのサンゴと魚たちに出会えるパラオ。

このすばらしい環境を守るため、パラオダイビング協議会では独自に環境・自然保護の取り組みを進めています。

人が海に入ることによって少なからずその環境は変化します。

その変化をいかに小さく抑えていくか、これが私達に課せられた大きなテーマ。

私達にできることから始めていますので、大きな影響力は無いかもしれませんが。

私達が何を考え、どのような活動を行っているのか？

パラオを訪れる皆さんに少しでも知っていただくことで、より大きな環境・自然保護の力につながると思います。

ASOBI : Assistance for Saving Our Beautiful Island この活動が広くパラオへ浸透するよう、私達は今後も努力してゆきます。